

文化・芸術

「作品」

2015年、合成塗料、カンバス、
木製およびアルミ製のパネル
113・7寸×96・0寸

佐々木耕成 (1928～2018年)

7月10日から大川美術館では、企画展「桐生のアーティスト2021 KiryuPOP」を開催します。ポンツとはじけるような明るさと元気のよさを意味するPOPをキーワードに、桐生のアーティストたちの作品をご覧ください。そこで、今回から出展作品を紹介していきます。

はじめは、特別出品としてこの展覧会の導入部の作品です。佐々木耕成は、熊本県菊池市に生まれ、戦後東京に出て武蔵野美術学校を卒業。市民と美術をつなげる前衛美術運動に参加した後、ニューヨークに移住。帰国後の1990年に黒保根に移住。以後、創作のかたわら、音楽祭を主催するなど、地域の文化活動にも貢献しました。

『何々を描く』とか『何々を表現する』っていうことじゃなくて、自分の生き方を記録してると思っていますよ」とインタビューにこたえています。作品は、そうした達観した明るさとエネルギーにあふれています。

(田中)



〈名画の扉〉

大川美術館「桐生のアーティスト
2021 KiryuPOP」から